

# 市民の横顔 FACCE

臨場感のある

絵と音楽の共演に

魅せられて

サンドアート集団SILTT  
パフォーマー

紫苑さん



ガラス面に砂を広げて絵を描き、バックライトを照らして投影するサンドアート。市内在住の紫苑さんは全国でも数少ないサンドアートのパフォーマーです。

昨年はコブクロの全国ツアーにも帯同し、「桜」や「エール」など有名曲にあわせてライブパフォーマンスを披露しました。

—いつサンドアートに  
出会いましたか？

2014年の夏、ファンだったUVERVEのライブで、サンドアート集団SILTT代表の船本さんの映像演出を見て感動し、ツイッターをフォローしたのがすべての始まりです。当時、私は長野高校を卒業し、すぐに上京。ライブハウスなどでアルバイトをしながら音楽事務所に所属し、歌手デビューに向けて曲づくりやレコーディングなどをしていました。

もともと絵を描くのが好きで、時々ツイッターにイラストを投稿していたところ、船本さんから「サンドアートに挑戦してみないか」

とメッセージがあり、これはチャンスだと思い、千駄ヶ谷のスタジオに通い必死で技術を習得しました。

—サンドアートの魅力は？

ガラスの上で逆光に照らされた砂が動き、まるで絵本のように物語が展開されます。絵の具などと違い、砂は一瞬で消えてしまう。その儚さが人を惹きつけます。

しかも、観客と同じ時間、同じ空間を共有するライブでは、絵と音のタイミングから二度と同じ表現はできません。そんな「ライブ感」が魅力です。

—お仕事として  
苦勞する点は？

SILTTは私を含めて9人のアーティストで構成され、これまで500件を超えるイベントに出演し300本以上の作品を作ってきました。普段はイベント会社を通じて様々なオファーがあり、全国を駆け回っていますが、最近ではコロナ禍のため中止も多いです。

依頼があると、事前に時間をかけて準備します。コブクロのライブでは、北海



道から鹿児島まで全国の様々な場所へ行き、一度に5万人の前でパフォーマンスしました。「絶対に失敗できない」と緊張で手が震える中、映像と音をリンクさせるため、スタッフとの連携にとっても苦勞しました。

—今後の抱負や目標は？

人生のチャンスは降りてきた時にぱっとつかまないと逃げていくものだと思います。私は東京でサンドアートに出会えて視野が広がりました。人生の歯車が一気に回り出しました。今は母が昨年亡くなったため、父や弟を支えたいと実家に戻っていますが、月イチで上京して活動



写真左はSILTT代表船本さん

を続けています。

憧れていたバンドと同じステージに立てる事は私にとって天職だと思います。これからもさらに技術を磨き、サンドアートの魅力を全国に伝えていきたいです。